

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部農産園芸課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	渋谷 隆秀
事業群名	品目別戦略の再構築(果樹)	事業群関係課(室)	農業経営課、農政課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 米や果樹、施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。					(取組項目))樹園地の基盤整備による担い手の規模拡大や優良品種・新技術の積極的導入などによる高品質果実生産、オリジナル品種の育成、機能性表示制度への対応などブランド力を強化	
指 標		最終目標 (H32)	基準値 (H25)	実績 (H27)	達成率	(進捗状況の分析) 本県の主要品目であるみかんの販売額は、前年と横ばいとなった。高齢化等による部会員数の減少や、栽培面積の減少がみられるものの、一戸あたりの栽培面積は拡大している。 また、びわについては、前年夏季の日照不足に加え、平成28年1月には寒害が発生したことなど自然災害に伴う甚大な被害が発生したことなどから、販売額、生産量ともに減少した。
事業群	産地計画策定産地の販売額	1,093億円	965億円	1,014億円		
その他						

2. 28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				28年度事業の成果等	中核事業		
			H28実績	一般財源	人件費(参考)		事業対象	指標	主な目標	H28目標			H28実績	達成率
			H29計画	一般財源	人件費(参考)					H29目標				
取組項目	次世代へつなぐ果樹産地活性化推進事業費 農産園芸課	H28-32	8,372	8,372	16,084	農業団体等 担い手の規模拡大、ブランド力強化、消費構造の変化に応じた消費拡大対策等を推進し、農家の所得向上と産地の活性化を図ることを目的とした、「第11次長崎県果樹農業振興計画」の達成のため、支援を行った。	活動指標	かんきつ対策会議の開催(回)	9	9	100%	かんきつ対策会議において、県・関係機関・産地一体となりシートマルチを軸とした高品質果実生産および指定圃制度の取組など生産体制の強化に取り組んだ結果、H28年度の販売単価は289円/kgで、全国1位の単価となった。 平成29年2月に「第11次長崎県果樹農業振興計画」のアクションプランとなる「長崎みかん産地活性化プラン」を策定した。		
			5,620	5,420	16,148		成果指標	みかん単価県別順位 全国1位(位)	2	1	200%			
	未来を創る園芸産地支援事業費 農産園芸課	H28-32	154,983	154,983	16,084	園芸産地の5年後の目標を定めた「産地計画」の策定及び計画実現に向けた活動の支援を図るため、推進会議の開催、産地の構造改革を推進するための講座や研修会の実施、産地の課題解決のためのアドバイザー派遣、定時・定量・定質出荷の実現やコスト縮減を図るための施設・機械等の整備を支援した。	活動指標	事業推進会議の開催数(回)	2	2	100%			
			129,893	129,893	16,148		成果指標	園芸作物産出額(億円)	851	算定中				
								858			(参考)H27実績:905億円			

取組項目	災害に強い日本一のびわ産地緊急対策事業費	(H28補正) H28	23,269	23,269	2,413	県内生産者、団体等	平成28年1月の寒害により大きな被害を受けたびわ産地を、災害に強いびわ産地へ構造転換を図るため、共済加入促進、簡易ハウスの整備、びわ樹の低樹高化等の取組を支援を行った。	活動指標	簡易ハウス整備件数(戸)	20	24	120%	簡易ハウスの導入による寒害のリスク回避に寄与し、また、施設化にも対応した低樹高化による樹形の改善を行い、生産者の作業性の改善につながった。また、共済加入促進により生産者の災害への備えの意識が高まった。	
		農産園芸課						成果指標	簡易ハウスの面積(ha)	3	2.7	90%		
	ながさきオリジナル新品種開発推進事業費	H27-29		6,946	6,946	2,016	農業者	「いちご」「かんきつ類」「花き」のブランド力を強化するため、オリジナル品種の開発を進めるとともに、枝変りの探索、有望品種の現地適応試験、健病種苗の供給を行い、産地への普及に取り組んだ。	活動指標	交配品種の収集数(品種)	5	7	140%	H27に交配し得られた中晩相交配種子1,700粒より実生苗455系統を育成し、H28に成長等を観察して288系統を選抜。H28に交配し得られた中晩相交配種子1,083粒を播種して実生苗を育成中。温州みかん珠心実生では、H28/3/30に「原口早生」由来の「長崎果研原口1号」を品種登録出願し、6/28付けで出願公表された。
			農産園芸課		4,953	4,953			2,019	成果指標	交配により作出する個体数(個体)(H28)	500	1,900	
	新規品目等チャレンジ農業支援事業費	H27-29		3,000	3,000	3,217	チャレンジプラン策定団体	新規品目や新規品目を含めた少量多品目等からなる「チャレンジプラン」を策定した組織に対し、プランの実現のための事業可能性調査、栽培試験、試験販売、講師招聘等を支援し、新規品目の作付面積拡大を図った。	活動指標	事業推進会議の開催数(回)	14	14	100%	果樹では諫早市でアボカドのチャレンジプランを策定、品種収集や試験栽培が取組まれた。
			農産園芸課		2,500	2,500			3,230	成果指標	チャレンジプランの導入面積割合(%)	100	135	
	輸出用農産物防除体系確立事業	(H28終了) H26-28		2,191	1,973	2,413	農業者	H27年度に作成した台湾向けのみかん防除層(案)について、生産者圃場で実証試験を行い、病害虫の発生状況や農薬の残留状況等の調査を行った。	活動指標	防除体系モデル実証圃の設置(箇所)	1	1	100%	国の事業とも連携しながら、台湾に対応したみかんの防除層を作成することができた。また、日本で使用できる農薬が台湾向けにも使用できるように国に働きかけを行った。
			農業経営課						成果指標	輸出対応型防除層の作成(品目)	1	1	100%	
	贈答用高級中晩柑ブランドの造成・普及によるみかん産地の構造改革・販路拡大事業費	(H28補正) H29					農業者・農業生産法人等	本県オリジナル中晩柑の育種を進める施設を農林技術開発センターに整備する。	活動指標	本県オリジナルかんきつ類育種研究数(種)	2			
			農政課		56,586	793			3,230	成果指標	温州ミカンオリジナル新品種や高品質中晩柑新品種の導入によるカンキツ類産出額の増加額(千円)	24,380		

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

- 樹園地の基盤整備による担い手の規模拡大や優良品種・新技術の積極的導入などによる高品質果実生産、オリジナル品種の育成、機能性表示制度への対応などブランド力を強化
- ・担い手への農地集積と生産効率が高く高品質生産が可能となる基盤整備を推進し、平成28年度までに2地区で事業計画認定を受け事業を着工した。その他2地区においては、平成30年度に向けて事業計画の検討を進めている。また、長与町、大村市、びわ産地においては基盤整備候補地の検討を始めている。
 - ・みかんにおいては「長崎みかん産地活性化プラン」を策定し、品質向上と樹園地の若返りを目的に、果樹経営支援対策事業、未収益間支援事業などを活用し、優良品種への改植を支援した。また、みかんのブランド強化を図るため、シートマルチ栽培を軸とした指定園制度を推進した。その結果、平成28年度は「ながさき西海農協させば地区かんきつ部会」が「天皇杯」を受賞したことも後押しし、みかん単価県別順位全国1位となった。一方、産地間の取組格差が課題であり、今後はこのうみ地区において、貯蔵みかん産地育成の検討を行う。
 - ・びわにおいては災害に強いびわ産地の育成を図るために、簡易ハウス整備、共済加入促進、びわの低樹高対策を推進した。平成28年度は6月補正での事業実施であり、スケジュールが短い中での簡易ハウス推進や工期等の事情もあり、目標達成にはいたらなかった。今後も、簡易ハウスの面積拡大が急務であるが、傾斜地などの圃地条件により進みにくいため、基盤整備の検討と併せ推進する。
 - ・消費者の新たな需要を創出するため、オリジナル品種の開発と、機能性関与成分表示制度を推進しているが、オリジナル品種開発については、開発までに長い時間を要することが課題として挙げられる。また、機能性関与成分表示制度への対応について、加工品であるみかんジュースの臨床試験など具体的に進めているものの、青果については産地のメリットについて今後検討していく必要がある。
 - ・実需者ニーズである定時・定量・定質の出荷を図るための生産体制、高性能選果機等を整備するとともに、省人化、省力化を図る家庭選果を代替するプレ選果システム開発を実証中である。また、選果場の再編整備を検討していく必要がある。

4.29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	次世代へつなぐ果樹産地活性化推進事業費	平成29年度は生産現場や実需者、研究機関の意見を聴取しつつ、樹園地の基盤整備計画の協議の加速化、長崎オリジナル品種の普及体制の整備、落葉果樹の新品種導入やアボカド等の新たな果樹の導入について検討する。		果樹産地の活性化に向けた取組を推進するうえで、ブランドみかん生産を図るため指定園制度とあわせ、樹園地管理システムの普及推進、樹園地の基盤整備についてはみかんに加えびわ産地の推進体制を整備して、農村整備課と連携して推進していく。	改善
	未来を創る園芸産地支援事業費	寒害等の災害に強いびわ産地へ構造転換を図るため、びわの簡易ハウスの整備の支援を検討した。		産地計画の達成のため、担い手の規模拡大や収量・品質の向上、コスト縮減とあわせて環境制御技術など先進的な農業技術の確立及び普及に取り組んでいる。果樹関係について、新たに定時・定量・定質出荷対策事業として、みかん冷風定湿貯蔵庫などの導入を検討する。	改善
	ながさきオリジナル新品種開発推進事業費			「中晩柑」は品種登録に向け農林技術開発センターにおいて育成中である。ウンシュウミカン育種では、現地での系統適応性試験を2品種5系統から1品種4系統に変更するとともに、新たに放射線照射による変異系統の探索を実施する必要がある。	改善
	新規品目チャレンジ農業支援事業費	本事業の目的に「中山間地域や離島半島地域などの一定規模の産地形成が困難な地域」における新規品目等の産地育成を支援するとしているため、事業対象地域を明確にした。		各地域において新規品目等の掘り起しが一定程度できたため、今後は別事業で産地育成に取り組んでいく。	終了
	贈答用高級中晩柑ブランドの造成・普及によるみかん産地の構造改革・販路拡大事業費	H28補正			終了